

REPORT

第1回 日本臨床薬理学会近畿地方会を終えて

社会医療法人大道会帝国ホテルクリニック

鍵谷 俊文

会期：2016年9月17日（土）13：00～17：00

会場：大阪大学中之島センター 佐治敬三メモリアルホール

会長：鍵谷俊文（社会医療法人大道会帝国ホテルクリニック）

1. 開催準備

第1回日本臨床薬理学会近畿地方会を2016年9月17日に大阪大学中之島センターで開催した。

2015年12月4日に地方会支部運営規則が施行されるようになったが、近畿支部の発足が間に合わないままになっていた。そこで、本学会の高田監事を中心として、近畿支部世話人の依頼が行われた。2016年3月13日にweb上で第1回世話人会が行われ、鍵谷俊文が支部代表および第1回地方会を担当することになった（Table 1）。また、地方会事務局を大阪大学大学院薬学研究科臨床薬効解析学分野の藤尾氏にお願いし、9月17日に第1回地方会を大阪大学中

之島センターで開催することが決定された。さらに、第1回地方会のホームページが立ち上げられ、学会のホームページからリンクされるようになった。

2. 開催概要

公募と世話人各位の協力により、2つのセッションの演題と教育講演、特別講演からなるプログラムを作成した（Table 2）。

参加者は、118名であり、有意義な講演と活発な討論が行われ盛会であった。

終了後に、参加者各位の交流を深めていただくために懇

Table 1 日本臨床薬理学会近畿支部世話人

	氏名	所属
支部代表	鍵谷 俊文	社会医療法人大道会帝国ホテルクリニック
世話人	大野 雅子	兵庫医療大学薬学部臨床薬剤学
	勝谷 友宏	勝谷医院／大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学
	北野 雅之	和歌山県立医科大学消化器内科（第2内科）
	栄田 敏之	京都薬科大学薬物動態学
	大門 貴志	兵庫医科大学医療統計学
	高田 寛治	NPO 日本健康支援機構 AN／（株）バイオセレントック
	南畝 晋平	兵庫医療大学薬学部医療薬学科
	古家 英寿	医療法人平心会大阪治験病院
	前田 真貴子	大阪大学薬学研究科附属実践薬学教育センター先進臨床薬理プロジェクト
監事	矢野 育子	京都大学医学部附属病院薬剤部
	山本 洋一	大阪大学医学部附属病院未来医療開発部未来医療センター臨床試験部門
事務局	藤尾 慈	大阪大学薬学研究科臨床薬効解析学分野

(2016年7月1日現在)

著者連絡先：鍵谷俊文 社会医療法人大道会帝国ホテルクリニック 〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-50 帝国ホテル大阪3階

E-mail：tkagiya-osk@umin.ac.jp

投稿受付 2016年10月17日、掲載決定 2016年10月20日

ISSN 0388-1601 Copyright：©2016 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

Table 2 第1回日本臨床薬理学会近畿地方会プログラム

<ファーマコゲノミクス：最近の話題>	<臨床試験の新展開>
座長：南畝晋平（兵庫医療大学薬学部） 大野雅子（兵庫医療大学薬学部）	座長：高田寛治（日本健康支援機構 AN）
1. 日本人 HIV-1 感染症患者における UGT1A1 遺伝子多型とドレグラビル血漿トラフ濃度の関連 矢倉裕輝 ¹ ，渡邊 大 ² ，富島公介 ¹ ，佐光留美 ¹ ，土井敏行 ¹ ， 上平朝子 ² ，山崎邦夫 ¹ ，白阪琢磨 ² （国立病院機構大阪医療センター ¹ 薬剤部 ² HIV/AIDS 先端医療開発センター） 2. 抗うつ薬の個別化医療～ファーマコゲノミクスとファーマコエピゲノミクス～ 南畝晋平（兵庫医療大学薬学部） 3. ゲノム情報に基づいた結核治療の個別適正化 大野雅子（兵庫医療大学薬学部）	1. カペシタビン反復投与後のカペシタビンの体内動態及び腫瘍内濃度の変動 佐藤孝和，能勢祐輔，河瀬真治，伊藤由佳子，柴田敏之（京都薬科大学薬物動態学分野） 2. 肺内薬物動態について —BAL 法の進歩— 古家英寿（大阪治験病院） 3. 大阪大学医学部附属病院における，臨床中核病院としての臨床試験推進のための取り組み 山本洋一（大阪大学医学部附属病院未来医療開発部臨床試験部門）
<教育講演>	<特別講演>
座長：中山博之（大阪大学薬学研究所）	座長：鍵谷俊文（帝国ホテルクリニック所長）
「高齢者高血圧の管理～JSH2014 から SPRINT 研究まで～」 勝谷友宏（勝谷医院院長／大阪大学医学系研究科臨床遺伝子治療学）	「電子カルテシステムの臨床研究への活用」 松村泰志（大阪大学医学系研究科医療情報学教授）

親会を開催した。和やかに懇談が行われ，各位が交流の機会を持つことができた。

3. 講演

最初のセッションは，大阪から世界の臨床薬理学の発展に多大の貢献をなされた故 東純一氏に因んで，「ファーマコゲノミクス：最近の話題」とさせていただいた。HIV-1 感染患者，うつ病患者，結核患者の治療における薬物代謝，副作用と薬物代謝酵素遺伝子多型の関係やファーマコエピゲノミクスの試みが論じられ，今後のそれぞれの疾患における治療の個別適正化の戦略が示唆された。

教育講演は，実地臨床医家でもある勝谷友宏氏に「高齢者高血圧の管理」として JSH2014 から SPRINT 研究までの臨床試験の結果を踏まえた高血圧治療についてお話しいただいた。高齢者高血圧の特徴を再確認するとともに，高血圧治療による健康長寿実現のための地域における臨床実地活動が紹介され，日々の臨床治療に有用でありかつ楽しく拝聴できた。

2 番目のセッションでは「臨床試験の新展開」として，抗がん剤の腫瘍内濃度の問題と BAL 法による吸入薬の肺胞内濃度測定法についての報告があった。さらに，大阪大学医学部附属病院における臨床研究推進のための取り組みが報告され，その中で phase 1 施設の現状についても紹介さ

れた。

4. 特別講演

大阪大学大学院医学系研究科医療情報学の松村泰志氏に「電子カルテシステムの臨床研究への活用」として，臨床試験，治験における電子データの取り扱いについて講演を行っていただいた。その中で，電子カルテデータをわざわざ紙媒体などに出力して治験 EDC（Electric Data Capture）のデータなどとして再入力している現状から，テンプレートを用いて，電子データの直接受け渡しを可能にする方法の実際の利用について詳しい解説が行われた。今後とも発展が望まれる研究と感じた。

5. アンケート結果

参加者に地方会開催についてのアンケートを実施した（Figure）。有効回答者数は 105 名（回答率 89.0%）であった。職種については，CRC41%，薬剤師 23%，医師 13%であった。学会の会員は 45%で，非会員の参加者の方が多かった。また，次回以降も参加を検討している方が多かった。このことから，地方会の教育・研修としての役割が重要であり，今後の会員増加にも寄与すると思われる。参加者からは，交通費などの問題から，地域での研修機会を増やしてほしいとの要望があった。

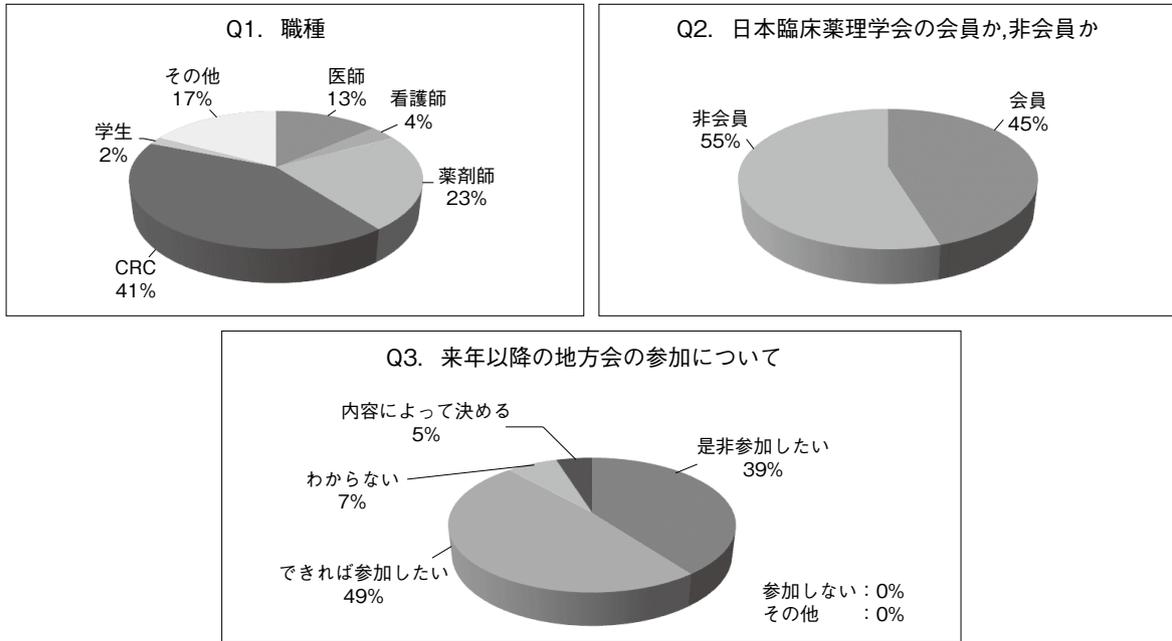


Figure 参加者アンケート集計結果

6. 今後の発展に向けて

支部の使命は、学会の設立主旨に則り、当該地域における会員に対して、臨床試験を適正に行える教育・研修を行うとともに、薬物治療の進歩、臨床研究の促進を図り、広く社会に対する啓発を行うことにある。近畿支部は、今後もこの使命を果たすよう努めていきたい。また、今回の経験を踏まえて、今後は製薬会社の開発部員や薬剤を含有する医療機器の開発に従事する方々へも広く参加を呼びかけていきたい。

9月17日第1回近畿地方会の開催前に、第2回近畿支部世話人会が開催され、大阪大学医学部附属病院未来医療開

発部の山本洋一氏に、2017年開催の第2回近畿地方会の会長を依頼することになり、山本氏から受諾の挨拶と世話人会への協力依頼があった。

今回は、準備期間も短く、初めての近畿地方会ということでもあり、至らない点多かったと思いますが、多くの方々に参加いただき感謝申し上げます。また、近畿支部、地方会事務局を担当していただいた大阪大学大学院薬学研究所臨床薬効解析学分野教室の皆様ならびにご協力いただいた多くの方々のご支援により成功裏に終了できましたことに厚く御礼申し上げます。